

大本染工株式会社 受注品から納品・請求までの基幹業務並びに生産管理と技術情報のDX化

都道府県 京都府

従業員数 32人

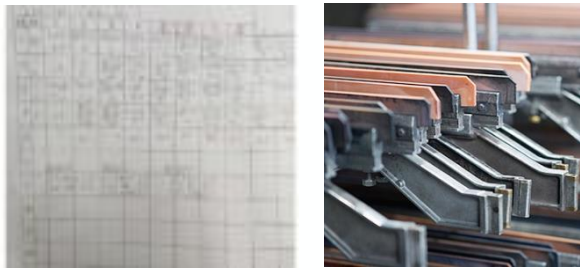
事業 染色整理業

事業概要

- 京都にて染色整理（捺染業）を営む。
- アパレルを中心に産業資材、スポーツ、雑貨等多岐に渡る製品の染色を行う染色加工のプロフェッショナル。



抱えていた課題



- 繊維産業は分業体制によって構成されているが、工程全体を通じた情報連携が不十分で、未だ電話やFAXが主流になっており、非効率な運用が生じていた。
- 具体的には、伝票管理が紙ベースなため業務効率が低下していることや、技術情報をDX化できていないため、生産性向上や技術伝承に繋がらない課題がある。

導入後の変化、効率化された業務

- 受注品から納品・請求までの基幹業務のDX化
まずは製造図面のデジタル化（手書きからデジタル化）に取り組むことから始め、オンライン発注システム、受注システム、販売管理システムとステップを踏んで基幹業務のDX化を図った。
- 生産管理と技術情報のDX化
蓄積された技術情報は定量的な情報として、生産性向上、歩留まりの改善、技術伝承に繋がっている。

導入した「受発注システム」の特徴

- 自社だけで完結せずに顧客とも連携できるようなシステムを構築している。
- 生産進捗情報は顧客にも開放しており顧客満足度に繋がっている。

成果



- 過去の履歴を書庫から探していたのが検索のみで探すことが可能となったため、会社全体の共有財産として取り扱うことが可能となった。
- コロナ前は部署によっては40時間以上の残業が常態化していたが、多い月でも半分以下となった。
- デジタル化に対する従業員の意識レベルが大きく変化し、アプリ作成を内製化できる等ITリテラシーが大幅に向上した。